



新津第一小学校通信

もみじ



令和3年1月15日発行
No.25
児童数 410人

<http://www.niitsuiti.city-niigata.ed.jp>

創立148年 歴史の1ページから

校長 田邊裕一

1月14日は新津第一小学校の創立記念日です。今年で148周年になります。その1ページから、校旗の制定の経緯について紹介します。

校旗が作られたのは大正時代の中頃です。当時の一小は県内でも大規模校の一つでした。新潟、長岡、高田の各師範学校から、若くてやる気のある教員がたくさん集められたと記録にあります。また、教科の研究に力を入れて取り組んでいたため、毎日夜遅くまで討議が続いていました。いつまでも校舎の電灯が消えないので「提灯学校」と言われていました。そのような中、真柄校長は学校の精神的な支柱となるべきものを作成したいと考え、校歌と校旗を作ることにしました。創立100周年記念誌には次のように書かれています。

校長はさっそく原案作成について、二つの委員会に諮問した。一つは先生方、もう一つは同窓会へである。どちらも「我らこそは」と頑張った。先生方は若手を中心にして、松ともみじを図案的に組み合わせ合わせた分かりやすいもの。同窓会側は桂家一族が柱となり、しかも、凝り性と言われた桂圭三氏が中心。もみじを中心に図案化した松の葉がそれを囲い込み、地の色も真紅ですごく鮮やかなものであった。どちらも「秋葉山の松・もみじ」をとるのは同じであっても、表し方に根本的な違いがあった。先生方は相手のものを「校旗ではなく優勝旗だ、派手すぎる」、同窓会側も一方を「単純すぎる、色彩の工夫が足りない」と互いに批評、どちらも譲らず対立した。

校長は、両方を受け取り、「よりよいものにするため、専門家に見てもらいその決定に任せよう」と取りなした。そのころ有名であった東京白木屋百貨店の図案部長のもとへ届け、見てもらったのである。そして、できあがったのが現在の図柄である。結局は、どちらのものもそのままは取り上げられず、趣旨を汲んでより校旗らしく生かされたのであった。

大正7年9月22日、校旗・校歌の公定式が講堂で行われました。鈴木寅五郎町長を始め来賓多数参列のもと、喜びの式典が催されました。

なお、校旗は同窓会男子部、校歌は同窓会女子部の寄贈となっています。

それから約100年、もみじと松をデザイン化した校旗は一小のシンボルとして、子どもたちを見守ってくれています。

2年後の令和4年には、大きな節目の創立150周年を迎えます。どのような周年事業を行うか、PTA役員の方々を中心に検討に入ります。



秋葉区もち麦探検隊

4年 田村 達二郎

4年生の総合的な学習の時間では、秋葉区産業振興課、白銀カルチャーの皆さんから、「もち麦」について学びました。秋葉区産業振興課の方から、「秋葉区民の血糖値が高いことから、血糖値を下げて健康の増進を進めています。」と講演をしていただきました。その後、インターネットや本で調べて、もち麦の栄養や効能、調理法などを知りました。



10月8日には、「もち麦」の生産をしている白銀カルチャーに見学に行きました。最先端の農機を使って、「もち麦」を育てていました。無人トラクターを動かしていただいたり、トラクターの運転席に乗せていただいたり、ドローンを触らせていただいたり、貴重な体験と学習をしてきました。

子どもたちは、「もち麦」に関心をもつようになり、給食に「もち麦が使われているよ」とうれしそうに報告に来ています。もち麦を今まで以上に活用して、健康増進に役立てようという気持ちが育っています。



